

令和 年 月 日

丹波市長 林 時彦 様

丹波市まなびの里づくり協議会
委員長 岡田 龍樹

「生涯学習（まなび）を実践に生かす地域づくりの推進」に向けた取組について(提言)

本会議での討論内容を尊重いただき、市内の各地域において「生涯学習を実践に生かす地域づくりの推進」のための取組としてここに別紙のとおり提言いたします。

記

1、「生涯学習を実践に生かす地域づくりの推進」に向けた取り組みについて

2、添付資料

- ・研究経過
- ・丹波市まなびの里づくり協議会 規則
- ・委員名簿

以上

「生涯学習を实践に生かす地域づくりの推進」に向けた取組について(提言)

丹波市まなびの里づくり協議会

1、はじめに

令和4年度からは、「生涯学習（まなび）を实践に生かす地域づくりの推進」をテーマとして、講話や協議会内でのグループワークなどを通じて、研究を行ってきました。

また、令和5年3月には、丹波市社会教育委員の会から市に向けた「地域学校協働活動」の展開に向けた提言もなされ、「学校を核とした地域づくり」という概念も地域づくりにおいて大切な一つのテーマとして浸透してきている中で、地域における「まなび」の在り方について今後の地域づくりにおける大変重要な視点であると考えます。

2、地域におけるまなびの現状と課題

（1）経緯・背景

○社会的な動向

- ・コロナによるまなびの機会の減少
- ・地域コミュニティ、社会的つながりの希薄化
- ・住民自らが主体的に地域づくりに関わっていくことの重要性

○社会教育を基盤とした、人づくり、つながりづくり、地域づくりに関する中央教育審議会の答申（H30.12 答申）

- ・地域における社会教育（人づくり、つながりづくり、地域づくり）の視点
- ・サービスの提供者、享受者を超えた行政と住民の主体的なかかわり

（2）丹波市における現状と課題

○知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり

- ・丹波市生涯学習基本計画
- ・まなびの里づくり協議会による協議
- ・生涯学習アンケート結果による市民の意識

【課題】

- まなびと地域づくりについての周知、理解のための手法
- 令和7年からの第2次計画の策定
- 首長部局と教育委員会部局のさらなる連携、協働

○公立公民館制度の廃止

- ・平成 23 年度 公立公民館制度の廃止

【課題】

- まなびの発信元から地域までの「遠さ」
- まなびのコーディネーターの存在
- 地域でまなびを広げていくことの意識

○自治協議会（振興会）の設置とその役割

- ・自治協議会設置の経緯（平成 19 年度自治協議会の設置）
- ・市民の主体的な地域への関わり（自治基本条例第 12 条）

【課題】

- 地域コミュニティ活動推進員の役割（人づくり）の理解
※あり方懇話会から
- 自治協議会と自治会の関係性の理解

○市民活動支援センターの設置

- ・市における社会教育、生涯学習の拠点施設としての役割
- ・アウトリーチでの地域づくり支援
- ・地域の未来デザインプロジェクト（通称:ミライン）による重点的地域支援

【課題】

- さらなる連携、協働（市民活動課、教育委員会ともに）
- 現在進行している地域づくり事業とのバランス

○地域学校協働活動とコミュニティスクール

- ・丹波市におけるコミュニティスクールの状況
- ・丹波市における地域学校協働活動の状況

3、提言の内容

現在、人口減少や少子高齢化をはじめとする多様な課題や、急速な社会状況の変化から、住民自らが主体となって地域の課題や変化を考えることが大変重要となってきています。

これは丹波市だけではなく、全国的な方針であり、早急に取り組む必要が求められると考えます。丹波市における「まなび」を中心とした視点からの地域づくりが、住民が主体となって地域に参画し、いきいきとした地域社会の実現につながることを願います。

また、地域に愛着と誇りをもちながら、そこに住まう主体同士をつなげる役割を持つキーマンの存在が、まなびの輪を広げ、地域内においての知識循環型生涯学習の推進に主体的に

関わる人材の育成等につながることを、これらの取組について提言します。

(1) 生涯学習を实践に生かす地域づくりの推進に必要なこと

- ・地域におけるまなびを推進するキーマンの存在と役割（目指す市民像）
- ・人材育成
- ・「協働」の概念の理解

(2) 地域・行政に必要なこと

- ・積極的な社会教育士養成のための周知
- ・自治協議会と連携、協働
- ・首長部局と教育委員会部局の連携、協働
- ・予算措置

(3) コーディネーター間ネットワーク構築

- ・各主体のコーディネーターとの連携・協働
(地域コミュニティ活動推進員・地域学校協働活動推進員など)

(4) 市民活動支援センターとの連携

・地域のコーディネーターを育成するにあたり、丹波市における生涯学習の拠点施設である丹波市市民活動支援センターとの連携、協働を行う。そのための予算や体制の構築。

4、今後重要になる視点について

- ・地域のまなびのコーディネーター（仮）の引継ぎや継続性
- ・地域のまなびのコーディネーター（仮）の理解
- ・多様な地域課題解決に向けたミッションの整理
- ・ボランティアコーディネーション
- ・大人のまなび
- ・まなびの双方向性（まなび合い）
- ・学校との連携、協働
- ・デジタルディバイド解消に向けたICT機器の活用
- ・ウェルビーイング

5、まとめ